

令和8年度 日本臨床歯科補綴学会
第35回学術大会・抄録集

Neo Occlusion

— ネオ・オクルージョン 「原則にして究極」 —



6.28.2026 国立科学博物館 日本館講堂

Neo Occlusion

ネオ・オクルージョン 「原則にして究極」

本学術大会は、補綴臨床分野を中心に最新の知見や研究成果を広く発信し、参加者同士の質疑応答と議論を通して、専門性の高い知識と技術の進化を図る場です。

これにより、補綴をはじめとする歯科臨床と患者ケアの質的向上を図り、国民の健康寿命延伸への貢献を目的としています。

今年度の第35回学術大会では、「NEO OCCLUSION —原則にして究極—」をメインテーマに掲げました。

これまでの咬合の概念を新たに再構築し、その真髄となる原則を示すとともに、最新の技術を探求して盛り込むことにより、未来を見据えた現時点における究極の咬合治療を、ご一緒に確認したいと考えています。

日本臨床歯科補綴学会

《 理事長 》	宮本 績輔	神奈川歯科大学客員教授
《 大会長 》	森野 隆	本学会副理事長・日本歯科技工士会会長
《 準備委員長 》	宝崎 岳彦	本学会理事・医療法人宝歯会理事長・平沢歯科院長
《 実行委員長 》	浅野 栄一朗	本学会監事・医療法人伊達デンタルクリニック理事長
	藤田 良磨	本学会副理事長・RYOMA Dental Technician's Office 代表

Table of Contents

目次



本学会について	00	教育講演 - 2	06
理事長挨拶	01	教育講演 - 3	07
大会長挨拶	02	基調講演	08
会場詳細・案内図	03	特別講演 - 1	09
プログラム	04	特別講演 - 2	10
教育講演 - 1	05	教育講演 - 4	11



本学会について About JCPDS

00

日本臨床歯科補綴学会（JCPDS）は、学術大会を中心に、補綴臨床に関わる知見を
発表と対話を通じて共有し、それぞれの臨床に立ち返るための視点を育む学術団体です。

学会理念 PHILOSOPHY

本学会は、歯科治療における基本的かつ重要な事項を、チェアサイドとラボサイドの両面から体系的に整理・検証し、臨床の現場で誰もが再現可能な治療システムとして構築・提供することを目的としています。エビデンスと臨床経験の両立を重視し、会員一人ひとりが日々の診療に自信と確信をもって臨めるよう、知識と技術の共有、教育、研究活動を推進します。

歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士をはじめとするすべてのコ・デンタルスタッフが、共通の治療哲学とシステムを理解し合うことで、互いの専門性を尊重し、作業工程を可視化しながら協働できる環境づくりを目指します。チーム全体が垣根なく連携し、患者にとって最良の機能回復と審美的調和を実現できる「真のチーム歯科医療」を確立することを使命とします。

社会への貢献 CONTRIBUTION

本学会は、補綴臨床の発展を通じて、歯科治療の質向上と患者利益の増進に寄与することを目指しています。社会に向けた情報発信や他学会との連携を通じ、臨床知識の向上と普及に貢献しています

沿革 HISTORY

- 昭和 61 年 / 1986
前身となる「日本臨床歯科補綴研修会」が活動を開始。
- 平成 1 年 / 1989
「日本臨床歯科補綴研究会」に改名。
- 平成 15 年 / 2003
「日本臨床歯科補綴学会」に改名し現在に至る。

理事長挨拶

Message from the Chairperson

01



日本臨床歯科補綴学会理事長
神奈川歯科大学客員教授

宮本 績輔

私共日本臨床歯科補綴学会では、歯科臨床と患者ケアの質的向上を図り、国民の健康長寿延伸への貢献を目的とし、補綴臨床分野を中心に最新の知見や研究成果を広く発信してまいりました。

今回の学術大会は6月28日（日）、上野の国立科学博物館・日本館講堂（国指定重要文化財）にて、「Neo Occlusion-原則にして究極-」をメインテーマに開催されます。特別講演の演者として、遠山敏成先生・吉田馨太先生のお二方をお迎えし、歯科医師・歯科技工士それぞれの立場から、咬合の概念に対する最前線の知見をお話しいたします。さらに当学会顧問・小出 馨先生による基調講演、ならびに本会会員4名による教育講演を企画致しました。

本学術大会へは補綴歯科治療に携わる歯科医師・歯科技工士・歯科衛生士・関連企業の方など、多くの参加者が見込まれております。大会参加者皆様との活発な意見交換を通して、これまでの咬合の概念を新たに再構築し、その神髄となる原則を示すとともに、最新の技術を探求して盛り込むことにより、未来を見据えた現時点における究極の咬合治療を、ご一緒に確認できればと考えております。

夢溢れる近未来の歯科治療とともに携わる多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。

大会長挨拶

Message from the Congress President

02



日本臨床歯科補綴学会副理事長
日本歯科技工士会会長

森野 隆

日本臨床歯科補綴学会の学術大会は、補綴臨床分野を中心に最新の知見、研究や臨床の成果を発信し、参加者同士の質疑応答と議論を通して、専門性の高い知識と技術の進化を図る研鑽の場です。そしてまた、参加者相互の連携や親睦を深めるとても楽しい有機的な場でもあります。これにより、補綴をはじめとする歯科臨床と患者ケアの質的向上を図り、国民の健康寿命延伸への貢献を目的としています。

今年度の第35回学術大会では、「Neo Occlusion ー原則にして究極ー」をメインテーマに掲げました。会場は、日本国の重要文化財に指定されている国立科学博物館・日本館講堂です。

Neo Occlusionの基調講演を小出 馨先生に、特別講演を遠山敏成先生と吉田馨太先生に、教育講演は西川 新先生、白石憲作先生、中村佐和子先生、小山浩一郎先生にご依頼致しました。いずれもそれぞれの分野で特に造詣の深い先生方です。

私達は、これまで35年にわたり本学会が提唱してきた広い意味での「生体に調和した咬合構成と管理」の原則を示してきました。本大会でも、その原則に最新の技術を探求して盛り込むことにより、未来を見据えた現時点における究極の歯科臨床を、ご一緒に確認したいと考えています。

筋や顎関節の評価、検査機器を用いた様々な診断、下顎位の評価と決定、エングラムへの対応、デジタル技術の活用、咬合様式と接触関係の構成、偏心位ガイドとディスクルージョン量、咬合と姿勢の評価、AIによる補綴装置の製作、メンテナンスケア、これら「咬合の7要素」でも示されている内容を含めた従来の咬合理論を、臨床に即して分かりやすく整理して示し、ご一緒に確認したいと思っています。

会場詳細・案内図

Venue Information & Map

03

本学術大会の会場である国立科学博物館は、東京の上野公園内にある、自然史と科学技術史に関する国立の総合科学博物館です。1877年に創立された、日本で最も歴史のある博物館の一つでもあります。

国立科学博物館 日本館講堂

日本国重要文化財指定建造物



ACCESS

〒110-8718
東京都台東区上野公園 7 - 20



プログラム
PROGRAM

04

9:30～受付開始

午前の部
10:00～

司会

田中 希代子

学会理事・医療法人社団 Smile Art 理事長
たなか歯科医院院長

開会の辞

森野 隆

本学会副理事長・公益社団法人 日本歯科技工士会会長

教育講演 — 1

質疑含め40分間

座長 神田 亨 本学会理事・かんだ歯科医院院長

顎頭安定位をスタートに考える
— 成長期・不正咬合・咬合崩壊症例における臨床判断 —

西川 新

教育講演 — 2

質疑含め40分間

座長 木村 義明 本学会理事・(有)エステティックアートデザイン代表

最新デジタルデンティストリーにおける
咬合再現の実際と展望

白石 憲作

教育講演 — 3

質疑含め40分間

座長 浅野 栄一郎 本学会監事・医療法人伊達デンタルクリニック理事長

発育から読み解く Neo Occlusion.
— 舌・下顎・上顎の調和的成長が創る咬合 —

中村 佐和子

お昼休憩

12:10～

お弁当をご用意しております。
日本館講堂内にてお召し上がりいただけます。

午後の部

13:00 ~

司会

早川 順満

本学会理事・青葉台歯科診療所

基調講演

質疑含め40分間

座長 宝崎 岳彦 大会準備委員長・本学会理事・医療法人宝歯会理事長・平沢歯科院長

Neo Occlusion

— 原則にして究極 —

小出 馨

特別講演 — 1

質疑含め80分間

座長 宮本 績輔 学会理事長・神奈川歯科大学客員教授

デジタル時代のジルコニア修復
— 原則を踏まえた材料選択・形成・接着 —

遠山 敏成

休憩 15:00 ~ 15:15

特別講演 — 2

質疑含め60分間

座長 藤田 良磨 学会副理事長・(株)RYOMA Dental Technician's Office 代表

普遍的な義歯技工の原則とNeo Occlusionへのアプローチ
— デジタル技術とe-Haがもたらす可能性と課題 —

吉田 馨太

教育講演 — 4

質疑含め40分間

座長 田中 希代子 学会理事・医療法人社団Smile Art 理事長・たなか歯科医院院長

姿勢・足圧、重心動揺解析で見えてきたこと
— 歯科が姿勢医学に貢献できる唯一無二の領域 —

小山 浩一郎

16:55 ~
閉会の辞

宝崎 岳彦

大会準備委員長・本学会理事・医療法人宝歯会理事長・平沢歯科院長

17:05
閉会

早川 順満

本学会理事・青葉台歯科診療所

顎頭安定位をスタートに考える — 成長期・不正咬合・咬合崩壊症例における臨床判断 —

SPEAKER

西川 新

医療法人社団新英会 あらた歯科クリニック 院長
日本臨床歯科補綴学会理事

顎 頭安定位は視覚的に捉えることが難しく、画像診断や数値で明確に示すことは容易ではない。しかし小出教授のご指導のもと、顎関節の触診を通じてその再現性や安定性を把握することが可能となり、臨床判断の重要な起点になり得ると感じている。本講演では、顎頭安定位を「結果」ではなく「治療のスタート地点」として捉え、補綴臨床における判断の軸としてどのように用いているかを共有したい。

成長期に顎頭安定位から逸脱した咬合で発育が進むと、骨格的な偏位を伴う不正咬合へと発展し、後の治療難易度は大きく上昇する。最も効率的な治療は、ズレた後に修正することではなく、ズレないように介入することである。一方で、現実の臨床では成長期に逸脱したまま成人期を迎え、咬合崩壊を呈する症例も少なくない。

本講演では、小児・矯正分野の詳細には踏み込まず、補綴医の立場から「なぜ顎頭安定位を意識すべきか」という視点に絞って言及する。その上で、基準のない咬合崩壊症例に対し、顎頭安定位を起点として咬合再構成を行う考え方、プロビジョナルを用いた評価、咬合平面の修正による顎関節の安定化、さらに理想に到達できない症例における現実的な落とし所について、フルマウス補綴および義歯症例を通して考察する。顎頭安定位を原則とした臨床判断が、Neo Occlusion の実践においてどのような意味を持つのかを提示したい。



西川 新

Nishikawa Arata

医療法人社団新英会 あらた歯科クリニック 院長
日本臨床歯科補綴学会理事

略歴

- ◆ 2008年 徳島大学歯学部卒業
- ◆ 2012年 医療法人社団新英会あらた歯科クリニック開院

所属学会

日本臨床歯科補綴学会 専門医
日本歯科補綴学会 認定医
IDIA 国際歯科インプラント学会 認定医
日本臨床歯科補綴学会
日本補綴歯科学会
日本歯周病学会
日本臨床歯周病学会

著書・論文

- ◆ JIADSジャーナル (2022年)
- ◆ デンタルダイヤモンド -咀嚼を実感できる磁性アタッチメント義歯- (2022年8月)
- ◆ JIADSジャーナル (2025年12月)

出演メディア

- ・ラジオ関西 - 口呼吸と歯の健康被害について - (2022年10月)
- ・WHITE CROSS株式会社 勤務医と患者が喜ぶ義歯修理 ～若手Drが結果を出せる実践的修理テクニック～ (2024年5月)
- ・ラジオ関西 - 舌から始まる命の話 (2026年1月)

主な講演

(株)MORITA開業セミナー(2015年4月)、(株)MORITA開業セミナー(2016年2月)、日本臨床歯科補綴学会(2017年2月)、第28回JIADS総会・学術大会 ―咬合崩壊に対して生理的下顎位の設定のためにタッピングポジションを用いた咬合再構成―(2021年)、兵庫県保険医協会 第32回日常診療経験交流会分科会 ―口呼吸の健康被害と鼻呼吸獲得のための治療法―(2023年10月)、日本臨床歯周病学会第42回年次大会 4-year follow up of implant and periodontal surgery and periodontal prosthesis for occlusion disintegration case(2024年6月)、兵庫県神戸市市民講演 ―0歳からはじめるお口の健康づくり―(2024年)、日本臨床歯周病学会 ―開咬に起因する咬合崩壊に対して、包括的治療により咬合再構成を行った一症例―(2025年11月)、兵庫県尼崎市市民講演 ―歯並びに悪影響を及ぼす身近な癖について―(2025年11月)

最新デジタルデンティストリーにおける 咬合再現の実際と展望

SPEAKER

白石 憲作

ケアーズソリューションセンター
日本臨床歯科補綴学会会員

デジタルテクノロジーの急速な普及は、歯科臨床の現場に大きな変革をもたらしています。口腔内スキャナーやCAD/CAMシステムの進化により、補綴物の製作フローはかつてないスピードでデジタル化が進んでいます。しかし、その一方で、歯科医療の根幹である「咬合」をデジタル空間でいかに精密に再現し、臨床結果に繋げていくかという課題は、今なお我々が向き合うべき重要なテーマです。

本講演では、日常のデジタルワークフローの中で直面する「咬合再現」の現状について、技工サイドの視点から整理してみたいと思います。クラウン・ブリッジやインプラント症例において、デジタルの利便性を活かしつつも、咬合の原則をどのように反映させていくべきか。いくつかの実践的なアプローチを交えながら、その「実際」を解説していきます。現場での試行錯誤や、デジタルならではの注意点についても、事例を交えて共有いたします。

また、進化を続けるデバイスやソフトウェアの可能性を踏まえ、これからのデジタルデンティストリーが進む「展望」についても触れる予定です。本大会のテーマである「Neo Occlusion」という視点から、次世代の咬合構成の在り方について、皆様と共に考える機会となれば幸いです。



白石 憲作

Shiraishi Kensaku

ケアーズソリューションセンター
日本臨床歯科補綴学会会員

略歴

- ◆ 2012年 3月 立教大学 法学部 卒業
- ◆ 2012年 4月 システムエンジニアとして勤務
- ◆ 2016年 4月 東京医科歯科大学 口腔保健学科 口腔保健工学専攻 入学
- ◆ 2019年 3月 東京医科歯科大学 口腔保健学科 口腔保健工学専攻 卒業
- ◆ 2019年 4月 株式会社CARESソリューションセンター 入社
- ◆ 2026年 4月 有限会社 湘南セラミック 兼務 現在に至る

所属学会

日本臨床歯科補綴学会

受賞

2019年 3月 長尾賞 東京医科歯科大学 成績優秀者表彰

講演

2025年 9月 3shape Webinar 「ノンクラスプデンチャー設計からミリングによる作製までのデジタルワークフロー」

発育から読み解く Neo Occlusion — 舌・下顎・上顎の調和的成長が創る咬合 —

SPEAKER

中村 佐和子

医療法人社団瑞芳会中村歯科医院
日本臨床歯科補綴学会理事

咬合の確立は、小児期からの動的な成長発育プロセスの帰結である。舌機能、下顎骨、上顎骨の調和の取れた発達という視点から、Neo Occlusion の基盤となる発育の本質を考えてみたい。舌は、上顎骨発育を促す重要なスキャフォードであり、胎児期から乳幼児期にかけての舌の発達と位置が口蓋形態、歯列弓幅径、鼻腔容積に直接影響する。正常な舌位と嚥下機能の獲得が、適切な上顎骨の成長を誘導し、理想的な咬合関係の基盤を築く。上顎骨と下顎骨は異なる発育様式を持つが、舌や、咀嚼筋、呼吸機能との相互作用の中で調和的に進行する。成長発育から咬合理解することで治療介入の適切なタイミングと方法が明確になるのではないだろうか。早期の機能的アプローチにより、生理的な発育ポテンシャルを最大限に引き出すことが可能となる。Neo Occlusion の真髄は、完成された咬合形態を作り出すことだけではなく、舌、上顎、下顎が調和的に成長するプロセスを理解し、その生物学的原則に基づいた治療哲学を構築することにある。それには、発育という原点に立ち返ることで、未来の咬合治療の新たな考えが生まれるのではないだろうか？



中村 佐和子

Sawako Nakamura

医療法人社団瑞芳会中村歯科医院
日本臨床歯科補綴学会理事

略歴

- ◆ 1987年 鶴見大学歯学部卒業
- ◆ 2005年 東京都江東区にて医療法人社団瑞芳会中村歯科医院開設・副院長
- ◆ 2012年 日本大学松戸歯学部にて博士(歯学)の学位取得

所属学会等

日本小児歯科学会専門医・指導医、日本小児歯科学会関東地方会第42回大会長
元日本小児歯科学会理事、日本大学松戸歯学部小児歯科教室兼任講師
日本臨床歯科補綴学会理事・顎関節と噛み合わせ専門医
鶴見大学同窓会常務理事、鶴見大学同窓会東京支部理事
東京都歯科医師会学術委員会常任委員、日本顎咬合学会かみあわせ認定医
元PRGF System Institute Japa 碩君事指導医、小児歯科学会関東地方会幹事
日本臨床補綴学会インストラクター、顎顔面矯正インストラクター

著書・論文

- ◆ 笑気吸入鎮静法下において振動刺激が下顎位感覚に及ぼす影響について、脳性麻痺者の下顎位感覚の特性（障害者歯科 2005年）
- ◆ Nested PCR-リアルタイムPCR法を用いた健康小児混合唾液中HSV-2の検出率（Journal of Pediatric Dentistry 2005年）
- ◆ Sotos症候群の頭蓋顎顔面成長(博士論文 日本大学・歯学 2012年)
- ◆ 可撤性補綴装置の脳性麻痺者への適応そして健常成人との比較について、脳性麻痺者の下顎位感覚の特性（障害者歯科 2009年）
- ◆ 小児歯科臨床に歯科用コーンビームCTを生かす（デンタルダイヤモンド 2015年）
- ◆ 小児歯科領域におけるCT応用の有効性,子どもの将来を支える大切なツール（デンタルダイヤモンド2016年）
- ◆ 健康寿命を延ばす小児期からのアプローチ（DH style 2017年）
- ◆ 歯科衛生士による記録と小児歯科専門医との連携（デンタルダイヤモンド 2019年）
- ◆ 上顎に急速拡大を行い扁桃肥大が縮小した1例（小児歯科誌 2019年）
- ◆ 歯科衛生士による記録と小児歯科専門医との連携（デンタルダイヤモンド 2019年）
- ◆ 小児歯科はじめましょう「小児患者に対する定期健診の意義」（デンタルダイヤモンド 2020年）
- ◆ フッ化物応用と注意点,フィッシャーシーラント,小児への予防処置（デンタルダイヤモンド 2020年）
- ◆ 小児歯科BASIC & CASEBOOK「妊婦への指導と治療上の注意点」（デンタルダイヤモンド 2022年）

基調講演

Keynote Lecture

08

Neo Occlusion

— 原則にして究極 —

SPEAKER

小出 馨

日本歯科大学名誉教授
日本臨床歯科補綴学会顧問

目 まぐるしく変化する現代、歯科治療においてもAIによる効率化や多様な選択肢が注目される中、咬合は歯科医療の根幹であり、決しておろそかにできない極めて重要なテーマである。

日常生活習慣や身体姿勢、歯の喪失や経年的咬耗など、様々な要因で咬合にくるいが生じると、下顎や頭位の偏位を引き起こす。さらにその影響が筋膜連鎖や重心バランスと姿勢制御機能により、全身の歪みへと伝搬し徐々に様々な徴候が発現することは、一般の方々にもよく知られる時代となった。

これらの咬合のくるい起因する生体现象に対して、咬合治療を実際に行う歯科医療者が、的確に診断と治療を行うには、専門領域である顎口腔系に関する重要事項の理解と治療内容の更なる高度化が求められる。

本基調講演では、従来の様々な咬合に関連する理論を多次元的視点から統合し、新たに再構築した Neo Occlusion の概念とその真髓となる原則を示す。これは、歯科医療を探究していくと最終的に辿り着く、最も重要な内容である。

抄録集表紙のブラックホールは、宇宙の闇、終着点のようにも見えるが、実は宇宙の根源や未知へ繋がる出発点、原始と超未来テクノロジーの交差点であり、Neo Occlusionの概念と重なってイメージされる。



小出 馨

Kaoru Koide

日本歯科大学名誉教授
日本臨床歯科補綴学会顧問

略歴

- ◆ 1979年 3月 日本歯科大学新潟歯学部卒業
- ◆ 1983年 3月 日本歯科大学大学院修了(歯学博士)
- ◆ 1988年 5月 カナダ・トロント大学歯学部補綴学教室客員教授 (2006年まで)
- ◆ 1998年 4月 日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第1講座主任教授
日本歯科大学大学院新潟生命歯学研究科機能性咬合治療学主任教授
- ◆ 1999年 4月 日本歯科大学新潟歯学部附属病院顎関節外来統括責任者併任 (2003年まで)
- ◆ 2001年 4月 日本歯科大学新潟歯学部附属病院技工科長・技工研修科長併任 ((2003年まで)
日本歯科大学新潟歯学部附属病院顎機能検査室長・言語治療室長併任 (2003年まで)
- ◆ 2022年 1月 日本歯科大学名誉教授

主な受賞等

- 2002年 日本補綴歯科学会・優秀論文賞
- 2008年 アジア歯科補綴学会・学会賞
- 2015年 日本補綴歯科学会・学会賞
- 2016年 日本スポーツ歯科医学会・学会賞
- 2022年 日本補綴歯科学会・名誉会員
- 2024年 日本補綴歯科学会・特別功労賞
- 2025年 日本歯科技工士会・紫紺賞 (学術振興特別功労賞)

現在までの主な役職等

日本国最高裁判所鑑定委員、日本補綴歯科学会理事・監事、日本スポーツ歯科医学会常任理事・監事、日本臨床歯科補綴学会会長・顧問、日本全身咬合学会常任理事・副理事長、国際口腔インプラント会議日本部会理事・副会長、日本顎関節学会理事、日本咀嚼学会理事、日本接着歯学会理事、日本顎咬合学会評議員、日本審美歯科学会評議員、JAPAN UNITED COLLEGEUES(JUC)学術顧問、Basic Dental Practice Group学術顧問、国際口腔インプラント会議専門医、日本補綴歯科学会専門医・指導医、日本顎関節学会専門医・指導医、東北大学非常勤講師、九州大学非常勤講師、広島大学非常勤講師

近年の主な臨床関連著書

- ◆ DAWSON・FUNCTIONAL OCCLUSION 監訳【改訂新版】(医歯薬出版2013)
- ◆ 新版・小出 馨の臨床が楽しくなる咬合治療-改訂版第2刷-(デンタルダイヤモンド2025)
- ◆ クリニカルクラスデンチャー 書籍化第1版 (医歯薬出版 2025)
- ◆ デザイニング・コンプリートデンチャー 書籍化第1版 (医歯薬出版2019)
- ◆ 基本クラスデンチャーの設計-新版- 書籍化第1版 (医歯薬出版 2020)
- ◆ 臨床機能咬合学-咬合の7要素によるオクルージョンの臨床- 書籍化第1版 (医歯薬出版2022)
- ◆ チェアサイドで行う顎機能検査のための基本機能解剖 書籍化第1版(医歯薬出版2023)
- ◆ 咬合器の大事なこと・デンタルエコー全10回連載 (松風 2021-2023)
- ◆ インプラント治療における顎機能診断と咬合構成の要点-前・後編-(歯科医療:第一歯科出版2025)

その他43冊

特別講演 — 1

Special Lecture - 1

09

デジタル時代のジルコニア修復 — 原則を踏まえた材料選択・形成・接着 —

SPEAKER

遠山 敏成

医療法人社団スターティス
マイスター春日歯科クリニック理事長

デジタルデンティストリーの進展に伴い、補綴治療はIOSによる光学印象、CAD設計、CAM加工へと大きく移行している。その中で、デジタルワークフローと極めて親和性の高いマテリアルの一つであるジルコニアは、高い加工精度と安定した材料特性を兼ね備え、あらゆる臨床領域において中心的存在となっている。

ジルコニアは高い曲げ強度と破壊靱性を有する一方で、応力集中や材料厚の不足が破折リスクを高めるため、滑らかなマージン移行形態と十分なクリアランスの確保が重要である。また、マージン形態の単純化はスキャン精度の向上のみならず、CAM加工の安定性や修復物の適合性向上にも寄与する。

しかしながら、現在のジルコニアは強度や透光性の組み合わせにより多様な種類が存在し、臨床現場では材料選択に迷う場面も少なくない。本講演では、3Y・4Y・5Y・6Yなど各世代ジルコニアの強度と透光性のバランスを整理し、症例に応じた適切な材料選択の指針を提示する。

さらに、ジルコニアの機械的特性および破壊挙動を踏まえた支台歯形成、咬合接触のコントロールについて解説し、ジルコニア修復においては最も課題とされる「接着」のプロトコルについても、サンドブラスト処理およびMDP含有ボンディング材、接着性レジンセメントを用いた基本的な接着操作だけでなく、近年提唱されている接着力を高める方法について臨床症例を通して詳しく解説する。



遠山 敏成

Toshinari Toyama

医療法人社団スターティス
マイスター春日歯科クリニック理事長

略歴

- ◆ 2002年日本大学歯学部卒業
- ◆ 日本大学歯学部附属歯科病院クラウンブリッジ科所属
- ◆ 2006年マイスター春日歯科クリニック開院

所属学会

日本補綴歯科学会
日本歯科保存学会
日本口腔インプラント学会
日本顎咬合学会
K2副会長
KIM理事
Esthetic Explorers理事
Tokyo Hands-On主宰

受賞等

2013年日本顎咬合学会優秀発表賞受賞
2020年アメリカ歯科審美学会メンバー
2024年日本歯科保存学会優秀論文賞受賞

著書・論文

- ◆ Digital Labo Style 実例から学ぶラボのデジタル化(医歯薬出版 2020年)
- ◆ 歯科医師・歯科技工士のための最新ジルコニア修復(クインテッセンス 2021年)
- ◆ Digital Dentistry YEARBOOK フェイススキャンについて(クインテッセンス 2021年)
- ◆ ジルコニア the ONE デジタルセラミックレストレーションにおけるワークフロー(医歯薬 2025年)

主な講演・セミナー等

Doctorbook academyデジトーク！(第57回～第74回)、1D8周年Liveセミナー、スタディグループK2オープンセミナー・Whitecross (IOS)、OHI-S(東ヨーロッパ系グループ)講演、1Dセミナー(ジルコニアオーバーレイ)、大阪万博ヘルスケアパビリオン歯科相談員・スタディグループK2コースハンズオン、1Dセミナー(クラウン形成について)、松風歯科クラブ講演、ドバイデンタルショー講演、Whitecross10周年記念講演
その他講演多数

普遍的な義歯技工の原則とNeo Occlusionへのアプローチ — デジタル技術とe-Haがもたらす可能性と課題 —

SPEAKER

吉田 馨太

株式会社シンワ歯研 副所長
新潟大学大学院医歯学総合研究科 包括歯科補綴歯学分野

デジタルデンチャーの普及は、製作工程の効率化のみならず、補綴装置の「標準化」に大きく寄与している。しかし、臨床現場では依然として患者固有の条件への対応や、咀嚼効率の向上、装着感向上などの機能面、あるいは高い審美性など、設計には高付加価値が求められる場面が多い。

デジタルデザインにおける最大の利点は、従来法におけるマウント、埋没、重合工程などを省くことができる点であり、加えてワックス操作などの習練を必要とする作業を排することが可能な点も挙げられる。また、中心咬合位や咬合平面、調節湾曲を適切に付与することで、経験の浅い技工士でも調整量の少ない装置製作が可能となり、技工品質の標準化が実現する。そしてそれを下支えするのは、長年の実績と研究に裏付けされた「e-Ha」等、適切な咬合面形態を付与した人工歯の活用にある。

「Neo Occlusion」を具現化するためには、標準化の先にある「高付加価値」へのアプローチが不可欠である。演者はデンチャーCADに汎用CADを組み合わせることで、システム上の制約を超え、金属床の付与やブレードティースへの置換といったカスタマイズの可能性を実感している。本講演では、標準化のための模型情報を的確に読み解き、デザインするアナログの視点と、それを具現化した後に付与する、高付加価値化への具体的手法を、症例を通して供覧する。

デジタルによる簡略化は「精度の底上げ」を意味し、汎用CADの活用は「技工士の創造性」を広げる鍵となる。これらの調和こそが、次世代の有床義歯技工における可能性であると確信している。



吉田 馨太

Yoshida Kouta

株式会社シンワ歯研 副所長
新潟大学大学院医歯学総合研究科 包括歯科補綴歯学分野

略歴

- ◆ 2000年 明倫短期大学 卒業
- ◆ 2006年 株式会社シンワ歯研入社
- ◆ 2020年 株式会社シンワ歯研 新潟本社 副所長
- ◆ 2024年 ReAF RPDクラス履修
- ◆ 2025年 新潟大学大学院 医歯学総合研究科 包括歯科補綴歯学分野 入学

所属学会

日本補綴歯科学会 会員
有床義歯学会 倫理委員会 理事
磁気歯科学会 臨床評価委員会 幹事
顎顔面補綴学会 会員
BPSテクニカル認定歯科技工士
株式会社アイキャスト 公認インストラクター (NMPD)

著書・論文

- ◆ 臨床導入6年で振り返るノンメタルクラスプデンチャーの臨床 (医歯薬出版2015年2月)
- ◆ 5年目までに押さえておきたい67のポイント (医歯薬出版2018年12月)
- ◆ デジタル技工入門61のポイント (医歯薬出版2022年5月)
- ◆ 2023年1月データから見える症例傾向と歯科医師・歯科技工士間の連携のポイント (ヒューロン・パブリッシャー 2023年1月)

主な講演・セミナー等

ラボサイドから見たノンメタルクラスプデンチャー～患者満足のために考えるべきポイント～ (アイキャストワールド 2018年7月)、コマーシャルラボにおけるデジタルデンチャーの臨床応用、第132回 日本補綴歯科学会 歯科技工士セッション (2023年5月)、義歯技工のデジタル化で見えてきたこと これからの課題 (第55回 Denture Café 2024年7月)、プリンテッドデンチャーの現在地～保険収載された条件と応用のポイント～ (新潟県三条市歯科医師会生涯研修 2026年1月)

姿勢・足圧、重心動揺解析で見えてきたこと — 歯科が姿勢医学に貢献できる唯一無二の領域 —

SPEAKER

小山 浩一郎

おやま歯科中通り診療所院長
日本臨床歯科補綴学会副理事長

不正咬合などが原因で、顎位の偏位に始まり頭位の側屈・回旋、やがて姿勢の崩れ、引いては全身症状にまで影響が及ぶことは、周知のことと考える。演者はこれまで頭位側屈・回旋に伴う舌の形態変化について、当学会において報告を行ってきた。すなわち、挺舌時の舌尖偏位と頭位側屈・回旋、開口時の舌背傾斜と後頭下筋群の過緊張との関係性についての仮説、などである。

これは、不正咬合などによる顎位の偏位の兆候として、臨床に有用なサインではないかと考え、臨床に応用しているところである。顎位の偏位に伴い、咀嚼筋群などに筋の過緊張が惹起され、伝搬し、全身に及ぶケースも少なくない。そのような場合、患者の「姿勢悪化」となって表出する。

従来、姿勢は「形」だと考えられてきたが、そうではなく、脳幹を中核に、小脳と大脳が協調し、前庭・視覚・深部感覚（口腔を含む）によってリアルタイムに再構築されているものである。

実際に姿勢・足圧、重心動揺解析装置（ToMoCo-LL 開発者：小出馨教授、日下由紀夫氏 東総システム）を使用して4年が経過した。この姿勢解析に用いる指標、足圧測定、重心動揺解析でのデータは私たちが介入する口腔諸組織への入力評価に非常に有用な意味を持つと考える。今回は、症例を交えながら姿勢制御について予測的姿勢調節（APA）と代償的姿勢調節

（CPA）に着目し、その制御閾値に関与する体性深部感覚（歯根膜受容器、咀嚼筋）の影響を装置解析データに照らし、咬合と姿勢について考察を加えたので、ご参加の皆様と共有するとともに、ご意見を頂戴したい。



小山 浩一郎

Oyama Kouichiro

おやま歯科中通り診療所院長
日本臨床歯科補綴学会副理事長

略歴

- ◆ 1988年 長崎大学歯学部卒業
長崎大学歯学部保存学第一講座助手
長崎大学歯学部付属病院文部教官
- ◆ 1994年 おやま歯科 開業
- ◆ 2008年 おやま歯科中通り診療所 開業

所属学会

Japan United Colleagues会員
日本歯周病学会
日本臨床歯周病学会
日本口腔インプラント学会
近未来オステオインプラント学会専門医
日本補綴歯科学会認定医
日本臨床歯科補綴学会副理事長
日本臨床歯科補綴学会専門医
日本顎関節学会
日本顎咬合学会認定医
日本審美歯科学会
日本臨床歯科補綴研修会インストラクター
日本スポーツ協会公認スポーツデンティスト

著書・論文

- ◆ SHILLA SYSTEMの概念とその臨床活用（クインテッセンス出版 2006年）
- ◆ 解剖から学ぶ 口腔ケア・口腔リハビリの手技とその実力（デンタルダイヤモンド社 2018年）
- ◆ 歯科臨床の知恵と技（医歯薬出版 2021年）
- ◆ 舌の診かた（医歯薬出版 2022年）



日本臨床歯科補綴学会

